

1-2 日本思想史

研究・教育活動の概要と特色

日本思想学は諸外国や諸民族との対比において、「日本的」なものの考え方や価値観の形成過程とその独自性を、歴史的な視点から客観的に明らかにしようとする学問です。この列島上で展開された、古代から現代までのさまざまな思想的営みを広く明らかにすることによって、人間とは何か、「日本人」とは何か、といった問題を探っていくことを目的としています。

東北大学の日本思想史研究室は、博士後期課程までを持つこの分野では国立大学法人中の唯一の研究室として、大正12年の開設以来、一貫して日本思想史研究界の中心的役割を担い、多数の優れた研究者を国内外に送りだしてきました。教育界などでも多くの修了生が活躍しています。

本研究室では授業のほかに、定例研究界や史料講読会の開催、学術雑誌の刊行など、大学院生を主体とする活発な研究活動が行われています。また教員が毎年国際学会で発表するなど、国内外の大学・研究機関・研究者との学問的・人的交流も、年々盛んになっています。

I 組織

1 教員数（2009年9月末現在）

教授： 1

准教授： 1

講師： 0

助教： 1

教授：佐藤弘夫

准教授：片岡 龍

助教：大川 真

助教：桐原健真（コンピュータ室）

2 在学生数（2009年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
29	2	6	15	1

3 修了生・卒業生数（2005～2009年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
05	5	3	2
06	7	4	1
07	8	5	0
08	8	5	1
09	1	0	0
計	29	17	4

*2009年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2005～2009年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
05	1	1	2
06	1	1	2
07	2	1	3
08	1	0	1
09	0	0	0
計	6	3	8

*2009年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

先崎彰容、2007年度、『個人主義のゆくえ—福沢諭吉、高山樗牛、和辻哲郎にみ

る』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・佐藤伸宏、助教授・片岡龍
佐久間正、2007年度、『徳川日本の思想形成と儒教』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・大藤修、准教授・片岡龍
大川真、2007年度、『王権・言葉・心をめぐる近世政治思想史研究』

審査委員：教授佐藤弘夫（主査）・教授大藤修・准教授片岡龍
富樫進、2009年度、『鑑真門下における護国仏教の研究- - 政治思想との関わり
において』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・佐藤伸宏、准教授・片岡龍、准
教授・佐倉由泰

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	3	3	0	2	8
06	2	1	0	0	3
07	3	0	0	0	3
08	3	2	0	0	5
09	3	2	0	1	6
計	14	8	0	3	25

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
05	2	4	10	0	16
06	0	5	10	0	15
07	0	4	10	0	14
08	2	1	10	0	13
09	1	7	3	0	11
計	4	27	43	0	69

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

研究会については概数。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

石澤理如「近代法思想へのまなざし—栗本鋤雲『暁窓追録』を中心に」『文化』第69巻第1・2号、2005年。

鈴木啓孝「「旧藩」の超越—明治10年代の陸羯南を題材として」『歴史』105輯、2006年4月。

鈴木啓孝「青年原敬における明治啓蒙主義の内面化—「士族の超越」を中心に」『日本歴史』2007年。

盧 奇香「幕末における福沢諭吉の西洋受容—幕臣意識を中心に」『日本文化学報』、2005年。

森川多聞「田中耕太郎の改宗—内村との訣別と「他者」」『日本思想史研究』38号、2006年。

中嶋英介「大道寺友山の士道論」『文化』（東北大学文学会）第71巻第1・2号、2008年。

中嶋英介「武教への道—山鹿素行の修養論」『文化』第73巻1・2号、発行予定)

中嶋英介「〔翻刻〕「古事記講義（序文）」『季刊日本思想史 特集—村岡典嗣：新資料の紹介と展望』74号、2009年（富樫進と共著）

中嶋英介「〔翻刻〕村岡典嗣「古事記序文講義」『日本思想史研究』41号、2009年、（本村昌文との共著）

岡安儀之「「平民」民権家・福地源一郎の「国民」形成論—士族平民民権論争を中心に—」『歴史』第110輯、東北史学会、2008年4月。

岡安儀之「政論新聞化と読者啓蒙—『東京日日新聞』入社期における福地源一郎を中心に—」『武蔵大学人文学会雑誌』第40巻第4号、武蔵大学人文学会、2009年3月。

ジョナサン・モリス、和久井洋子、和田有希子訳「【翻訳】ベルナール・フォーレル「禅宗史の再考」」『日本思想史研究』39号、2007年3月。

森新之介「撰関院政期貴族社会における末代観—災異思想や運命論との関連から—」、『日本思想史研究』第40号、2008年。

森新之介「九条兼実の反淳素思想—中世初期における貴族の歴史思想の一側面—」、『日本思想史学』第40号、2008年。

森新之介「撰関院政期における歴史思想—末代観と末法思想の比較を通して—」、『日本思想史研究』第41号、2009年。

(2) 口頭発表

- 石澤理如「幕末期の海防論と昌平黌」近世史サマーセミナー、松島かんぼの宿、
2007年7月.
- 石澤理如「幕末期の海防論と栗本鋤雲」日本思想史学会07年度大会、長崎大学、
2007年10月.
- 鈴木啓孝「読者から記者へ- 原敬の思想形成」第26回書物・出版と社会変容研究
会、2006年7月.
- 鈴木啓孝「明治14年、原敬の「東北」周遊- 「アイノ人」との出会いを中心に」
日本思想史学会2006年度大会、2006年10月.
- 中嶋英介「『武道初心集』の史的展開- 松代版出版を中心に」日本思想史学会2004
年度大会、2004年10月、京都大学.
- 中嶋英介「大道寺友山の家康像」日本文芸研究会大会、2006年6月.
- 中嶋英介「大道寺友山の士道論」日本思想史学会大会、2006年10月.
- 中嶋英介「士道論再考- 山鹿素行を中心に」日本思想史学会大会 2007年10月.
- 中嶋英介「近世士道論における軍記物の諸相- 山鹿素行を中心に」日本文芸研究
会 2008年6月.
- Eisuke Nakazima “An aspect of Bushido; argument in the Tokugawa period;The
perspective of Yamaga Soko”;Hanyang-UBC Conference 2008年6月,The
University of British Columbia(Canada)
- 中嶋英介「近世の職分論考- 山鹿素行を中心に」日本経済思想史研究
会 月例会 2008年10月4日 於慶應義塾大学
- 中嶋英介「山鹿素行の軍記物受容」 日本思想史学会大会 2008年10月19日
於愛知教育大学
- 中嶋英介「武教への道- 山鹿素行の修養論」東北近世史研究会 2008年3月21
日
- 中嶋英介「山鹿素行の教化論- 「武教」の展開を中心に-」日本経済思想史研究
会 全国大会 2009年6月7日 於大東文化大学
- 中嶋英介「大道寺友山『武道初心集』考」日本文芸研究会 研究発表会 2009年
9月19日発表予定 於仙台電波工業高等専門学校
- 盧 奇香「幕末における福沢諭吉の国際関係認識- 『西洋事情』を中心に」韓国
日本文化学会大会、2005年7月.

- 盧 奇香「『西洋事情』『学問のすすめ』『文明論之概略』における思想の連続・非連続について—西洋観を中心に」韓国日本文化学会大会、2005年10月。
- 岡安儀之「新聞の政論化と「論壇」の誕生——民撰議院論争から士族・平民民権論争へ」2007年度東北史学会大会、東北大学、2007年9月。
- 岡安儀之「「論壇」の成立—明治8年の大論争」日本思想史学会2007年度大会、長崎大学、2007年10月。
- 岡安儀之「福地源一郎における旧幕論の射程—その歴史認識を中心に—」2008年度明治維新史学会研究例会、2008年5月、於明治大学。
- 岡安儀之「福地源一郎における旧幕論の射程」明治維新史学会2008年度第38回大会、2008年6月、於青山学院大学。
- 岡安儀之「西南戦争以前における福地源一郎の言論活動—「国民」形成論を中心に—」（第184会メディア史研究会月例研究会、2009年5月30日、日本大学三崎町キャンパス）
- 岡安儀之「福地源一郎の言論活動—史論を中心に—」（第5回仙台近現代史研究会、2009年6月19日、東北大学）
- 森新之介「日記の思想——撰関院政期を中心とした貴族の古典学——」、『日本思想史研究会夏季セミナー』、2008年8月23日。
- 森新之介「九条兼実の道理と慈円の道理」、『日本思想史学会』、2008年10月19日。
- 森新之介「法然房源空の末代観と末法思想」、『日本思想史学会』、2009年10月18日。
- 葛睿「西村茂樹における「中」の思想」日本思想史学会大会（於愛知教育大学）2008年10月
- 葛睿「西村茂樹の宗教観」日本文芸研究会第六十一回研究発表大会発表2009年6月
- 葛睿「近代における日中の知識人と宗教——西村茂樹と梁啓超を中心に」台湾大学シンポジウム「東アジア儒学と日本の思想」2009年9月
- ジョナサン・モリス “Joint Postgraduate Conference, Department of Theology and Religious Studies”, University of Bristol、 June 2005 "Do monks make merit according to the Paali Canon?"
- ジョナサン・モリス「聖人のミイラ化と浄土思想について」（2009年4月25日、

日本思想史研究会四月例会)

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

2004年度 SPD、1名採用。

5 留学・留学生受け入れ

5- 1 大学院生・学部学生等の留学数

2005年度 大学院 1名 先崎彰容、大学院、E.H.E.S.S (フランス)

5- 2 留学生の受け入れ状況 (学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
05	3	2	5
06	8	3	11
07	4	3	7
08	3	5	8
09	2	6	8
計	20	19	39

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
05	1	0	1
06	1	0	1
07	2	0	2
08	3	0	3
09	0	0	0
計	7	0	7

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

昆野伸幸 東北大学大学院文学研究科助手 2004 年度
桐原健真 東北大学大学院文学研究科助手 2004 年度
黒崎史朋子 大阪大学工学研究科助教 2006 年度
大川真 東北大学大学院文学研究科助教 2008 年度
森川多聞 韓国・東明情報大学校ホテル経営学科専任講師 2008 年度
鈴木啓孝 韓国・東明情報大学校ホテル経営学科専任講師 2008 年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

2004 年度 高教員 1、新聞社 1
2005 年度 高教員 1
2006 年度 高教員 1
2007 年度 高教員 1、中教員 1
2008 年度 出版社 1
2009 年度 高教員 1

8 客員研究員の受け入れ状況

2009 年度 リサーチフェロー 李彩華（名古屋経済大学准教授）

9 外国人研究者の受け入れ状況

2005 年度 客員研究員 祝 平一（台湾中央研究院副研究員）

10 刊行物

『日本思想史研究』（年刊）

『年報日本思想史』（年刊）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

日韓共同シンポジウム「18- 19C 東アジア思想空間の再発見」（主催）2007 年
8 月 31 日～9 月 2 日。

日本思想史学会事務局、2008 年 10 月～。

日本思想史学会大会、2009 年 10 月 17・18 日

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2005 年度

日本思想史研究会月例会 7 回開催

日本思想史夏季セミナー テーマ「「偉人」観」

2006 年度

日本思想史研究会月例会 8 回開催

日本思想史夏季セミナー テーマ「テーマ思想史からみた「教育」――死生観の「教育」を焦点に」

2007 年度

日本思想史研究会月例会 8 回開催

日本思想史夏季セミナー テーマ「知の伝達」

2008 年度

日本思想史研究会月例会 8 回開催

日本思想史夏季セミナー テーマ「「古典」を考える」

合同研究会「日本の政治のかたち」

2009 年度

日本思想史研究会・東北大学臨床死生学研究会共催シンポジウム「人文学と現場との協業による臨床死生学の構築」

1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

日本思想史専攻分野は、2008 年 4 月 1 日現在、学部生 32 名・大学院生 22 名・研究生等 10 名が所属しており、留学生も 7 か国から 11 名を受入れている。教員一人当たりの学生数としては、文学研究科の中でもトップを争う位置にある。

大学院入試において本専攻分野を志願するものはきわめて多く、ここ 5 年間は毎年前期課程・後期課程を合計して、専攻分野の定員のほぼ 3 倍に当たる 8～9 名の大学院生を受入れている。他大学からの志願者の割合がきわめて多いことも本専攻分野の特色であり、現在在籍する大学院生の 7 割以上が東北大学以外の出身である。

東北大学の日本思想史研究室は、日本における思想史研究の草分けともいえる古い伝統を持つが、その伝統に安住することなく、国内はもとより国際的な研究センターの役割を果たすべく、研究・教育のレベルアップを図ってきた。

2007 年 8 月 31・9 月 1 日の両日には、本研究室の主催により、韓国からの出席者 40

名を含む国内外から 100 名以上の研究者の参加をえて、日韓共同国際シンポジウム「18—19C 東アジア思想空間」を成功裏に開催することができた。2 日には 50 名が参加して、平泉方面への見学旅行が行われた。

本専攻分野では授業の他に、大学院生の主催する数多くの自主的な読書会（史料講読会）がもたれている。本専攻分野の大学院生・OB が中心となって「日本思想史研究会」が結成されているが、同研究会は毎月第 3 土曜日に月例の公開研究発表会を開催し、大学院生や東北大学内外の研究者が発表を行っている。また、同研究会は毎年夏に 1 泊 2 日で研究会形式の合宿（夏季セミナー）を実施しており、2008 年 8 月に行われた同セミナーでは、東北大学以外の多くの大学の大学院生・教員を含む 45 名が参加し、活発な討論を繰り広げた。

大学院生には、日本思想史学会をはじめとする全国学会での発表を積極的に勧めている。従来あった研究室の雑誌『日本思想史研究』に加えて、新たに『年報日本思想史』を刊行し、院生の研究発表の場を拡げる努力を行っている。また定評ある全国学会誌への投稿を奨励しており、『日本思想史学』『日本歴史』『宗教研究』『日本史研究』『仏教史学研究』『歴史』『歴史評論』など、当該分野でよく読まれている雑誌に毎年論文が採用されている。

すでに教員は毎年海外の国際学会での発表を実践し、国際的な研究者のネットワーク作りを推進しているが、学生にも海外への研究留学を体験してもらい、それを生かしたスケールの大きな研究者の育成を目指している。ここ 4 年間では大学院在学中の学生 1 名がフランスに、大学院 OB2 名がアメリカに留学している。今後アジアも含めて、学生の海外体験の機会をいっそう拡げていきたいと考えている。

2005 年 4 月には、教員佐藤弘夫が編集代表となり、本専攻分野の OB を中心とする研究者が主体となって、『日本思想史概説』（ミネルヴァ書房）が刊行された。この書ははじめての本格的な日本思想史の通史として国内外の注目を集め、現在韓国語・中国語への翻訳の準備が進められている。また 2008 年 3 月には、教員片岡龍が共同編集を務め、本専攻分野の OB6 名の研究者を執筆陣に含む『日本思想史ハンドブック』（新書館）が刊行され、現在韓国語への翻訳の準備が進められている。

Ⅲ 教員の研究活動（2005～2009 年度）

1 教員による論文発表等

1- 1 論文

佐藤弘夫「中世の宗教と偽書の簇生」『別冊歴史読本』77 号、2004 年。

- 佐藤弘夫「板碑の造立とその思想」『東北中世史の研究』下巻、高志書院、2005年。
- 佐藤弘夫「偽書から見た中世」『中世の仏教』青史出版、2005年。
- 佐藤弘夫「神仏習合と神祇不拝」『日本史研究』511号、2005年。
- 佐藤弘夫「日本中世のコスモロジーと道教の神々」『アジア遊学』3号、2005年。
- 佐藤弘夫「天皇の宗教的権威・再考」『日本史の方法』3号、2006年。
- 佐藤弘夫「死者の行方」『学士会会報』859号、2006年。
- 佐藤弘夫「霊場— その成立と変貌」『中世の聖地・霊場』高志書院、2006年。
- 佐藤弘夫「偽書をつくる人々」『現代のエスプリ』481号、2007年。
- 佐藤弘夫「専修念仏と神祇不拝— なぜ念仏は弾圧されたのか」『真宗教学研究』28号、2007年。
- 佐藤弘夫「日本宗教の多面的・多角的解明に向けて— 仏教史の立場から」『日本宗教文化史研究』11号、2007年。
- 佐藤弘夫「「神仏習合」論の形成の史的背景」『宗教研究』353号、2007年。
- 佐藤弘夫「平家物語における死と救済」『国文学』52-15号、2008年。
- 佐藤弘夫「網野史学における神と天皇」『大航海』65号2008年。
- 佐藤弘夫「天皇の宗教的権威・再考」『古代日本の構造と原理』青木書店、2008年。
- 佐藤弘夫「板碑を通して見る中世東国の宗教世界」『日本仏教総合研究』6号、2008年。
- 佐藤弘夫「アラヒトガミの系譜」『季刊日本思想史学』73号、2008年。
- 佐藤弘夫「死者は山に棲むか— 「日本人」の霊魂観・再考」『アジア遊学』124号、2009年。
- 佐藤弘夫「前方後円墳に宿るもの— 祖霊観の系譜からみた」『死の機能— 前方後円墳とは何か』岩田書院、2009年。
- 佐藤弘夫「近代の歴史学と立正安国論」『福神』14号、2009年。
- 片岡龍「十七世紀 東亜細亜 儒学の潮流」『霞谷と江華陽明学派』2005年。
- 片岡龍「江戸儒学研究の課題」『近世儒学研究の方法と課題』汲古書院、2006年。
- 片岡龍「近世儒教研究史（70年代後半以降）」『日本思想史学』38、2006年。
- 片岡龍「人文学のゆくえをめぐる随想二題— 東アジアの思想研究」『中国学への提言— 外から見た日本の中国学研究—』日本中国学会、2007年。
- 片岡龍「儒教に対する使命感と諦念」『茶山学』11、2007年。

- 片岡龍「思想史学は現代的問題に寄与できるか？」『年報日本思想史』6、2007年。
- 片岡龍「伊藤仁斎の『孟子』論」『日本漢学国際学術検討会予稿集』2008年。
- 片岡龍「朱子学派・古学派の知的教養としての側面」『儒教の前近代性・近代性・脱近代性（1）』、2008年。
- 片岡龍「朱子学からの転換」『東アジアの政治伝統と民族主義：過去・現在・未来』、2008年。
- 片岡龍「目に見えないものへの想像力」『韓・日思想史共同シンポジウム予稿集』2008年。
- 片岡龍「抽象的情熱のポンプ」『大航海』67、2008年。
- 片岡龍「14～19世紀の日本の学問の特色と、その変化」『茶山学』14、2009年。
- 片岡龍「荻生徂徠—「独学」の魅力—」『近代東アジア知識人の生と学問』成均館大学出版部、2009年
- 片岡龍「伊藤仁斎之『孟子』論」『江戸時代日本漢学研究諸方面：思想文化篇』、国立台湾大学出版中心、2009年。
- 片岡龍「文学史」と「思想史」の融合」『中国—社会と文化』24、2009年。
- 大川真「伊兵衛殺人事件考—新井白石の君臣観—」『日本史研究』524号、日本史研究会、2006年4月、30～51頁。
- 大川真「叫ばれる正名—統一的国家イデオロギーの成立—」『歴史』108輯、東北史学会、2007年4月、78～100頁。
- 大川真「頼山陽における政治なるもの」『日本思想史研究』39号、東北大学大学院文学研究科日本思想史研究室、2007年3月、15～33頁。
- 大川真「後期水戸学における思想的転回—会沢正志斎の思想を中心に—」『日本思想史学』39号、日本思想史学会、ペリカン社、2007年9月、112～128頁。
- 桐原健真「幕末志士における読書——吉田松陰をめぐる同志的ネットワーク構築の一例として」明治維新史学会『明治維新史研究8・明治維新と文化』吉川弘文館、2005.8、105～125頁
- 桐原健真「吉田松陰の「神勅」観——「教」から「理」へ、そして「信」へ」『倫理学年報』54号、2005.9、161～174頁
- 桐原健真「日韓比較尊攘思想研究——尊華攘夷と尊王攘夷のあいだ」『南冥学研究』20号、2005.12、389～435頁、内411～432頁は韓国語訳

- 桐原健真「吉田松陰『野山獄読書記』の基礎的考察」（再録）、学術文献刊行会編『2003年度 日本史学年次別論文集・近現代3』朋文出版、2006年3月、1～15頁
- 桐原健真「東方君子国の落日——『新論』的世界観とその終焉」『明治維新史研究』3号、2006年12月、1～15頁
- 桐原健真「『新論』的世界観の構造とその思想史的背景」『茨城県史研究』91号、2007年3月、68～84頁
- 桐原健真「「外夷の法」——吉田松陰と白旗」、『日本思想史研究』40号、2008年3月、82～98頁
- 桐原健真「「帝国」の誕生——19世紀日本における国際社会認識」黄自進編『東亜世界中的日本政治社会特徴』台北・中央研究院人文社会科学研究センター亜太区域研究専題中心、2008年8月、139～164頁
- 桐原健真「死而不朽——吉田松陰における死と生」、『季刊 日本思想史』73号、2008年10月、55～74頁
- 桐原健真「「病院」の思想——幕末維新时期における西洋社会事業観念の展開」、陶徳民・姜克實・見城悌治・桐原健真編著『東アジアにおける公益思想の変容 近世から近代へ』日本経済評論社、2009年3月、117～136頁
- 桐原健真「求法の道——河口慧海と「日本仏教」」、小川原正道編『近代日本の仏教者における中国体験・インド体験』DTP出版、2009年3月、61～72頁

1-2 著書・編著

- 佐藤弘夫『概説日本思想史』（編著）ミネルヴァ書房、354頁、2005年。
- 佐藤弘夫『起請文の精神史』講談社選書メチエ、210頁、2006年4月。
- 佐藤弘夫『神国日本』ちくま新書、232頁、2006年4月。
- 佐藤弘夫『死者のゆくえ』岩田書院、249頁、2008年3月。
- 佐藤弘夫『立正安国論 全訳注』講談社学術文庫、190頁、2008年6月。
- 佐藤弘夫『死の機能 前方後円墳とは何か』（共著）岩田書院、2009年。
- 佐藤弘夫『日本文化論キーワード』（共編）有斐閣、2009年。
- 片岡龍『近世儒学研究の方法と課題』（共著）汲古書院、113～127頁、2006年2月。
- 片岡龍（苅部直と共編）『日本思想史ハンドブック』新書館、2008年3月
- 桐原健真『吉田松陰の思想と行動—幕末日本における自他認識の転回—』東北大学

出版会、2009年6月

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

佐藤弘夫「聖と俗」「仏教と国家」『歴史学事典』12「王と国家」弘文堂、2005年。

佐藤弘夫「起請文」『人文科学ハンドブック』東北大学出版会、2005年。

佐藤弘夫 書評／高木昭作著『将軍権力と天皇』『歴史評論』658号、2005年。

佐藤弘夫 書評／末木文美士著『近代日本の思想・再考』I・II『思想』972号、2005年。

佐藤弘夫 書評／繁田信一著『殴り合う貴族たち』共同通信配信各紙、2005年。

佐藤弘夫「日蓮」『名僧たちの教え』朝日選書、2005年。

佐藤弘夫 書評／佐々木馨著『日本中世思想の基調』図書新聞2765号、2006年3月。

佐藤弘夫 書評／鍛代俊雄『神国思想の系譜』週間読書人、2006年7月。

佐藤弘夫 書評／武澤秀一『法隆寺の謎を解く』産経新聞、2006年7月。

佐藤弘夫 鼎談「日本人にとって悪とは何か」『シリーズ思想の身体 悪の巻』春秋社、2006年11月。

佐藤弘夫「神はコンピュータに宿るか」『在家仏教』657号、2007年。

佐藤弘夫「名僧列伝 円仁」『仏教新発見 中尊寺』朝日新聞社、2007年。

佐藤弘夫「墓の行方」『明日の友』170号、2008年。

佐藤弘夫「起請文の神々」『鍔仙』564号、2008年。

佐藤弘夫「シンポジウム「中世における統合の契機とその構造」を聞いて」『日本中世のNATION』岩田書院、2008年。

佐藤弘夫「福神座談会：高木豊著『日蓮攷』『中世日蓮教団史攷』をめぐって」『福神』三一書房、13号、2009年。

佐藤弘夫「書評：末木文美士著『鎌倉仏教展開論』」『宗教研究』83巻1号、2009年。

佐藤弘夫「日本思想史学」他『日本思想史辞典』山川出版社、2009年。

佐藤弘夫「霊と身体- タマ・ミ・カラ」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年。

佐藤弘夫「伊勢神宮と出雲大社」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年。

佐藤弘夫「権現と本地垂迹」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年。

佐藤弘夫「盆と正月- 先祖霊と再生」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年。
佐藤弘夫「祭り- 神様とのつき合い」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年。
佐藤弘夫「ケガレとハラエ」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年。
佐藤弘夫「成仏する草木- 日本の自然観」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年。
佐藤弘夫「断罪される進歩史観- 網野善彦『「日本」とは何か』」『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年。
佐藤弘夫「入学試験制度の改革」『東北大学百年史 通史2』2009年
佐藤弘夫「書評：松尾剛次『破戒と男色の仏教史』」『中外日報』1月24日号、2009年。
佐藤弘夫「書評：菊地大樹著『中世仏教の原形と展開』」『史学雑誌』118巻1号、2009年。
佐藤弘夫「〈聖なるもの〉をどう捉えるか」『検証 網野善彦の歴史学』岩田書院、2009年。
片岡龍 書評／四方田犬彦『ソウルの風景』『STESSA』5、2005年。
片岡龍 書評／兪弘濬『私の文化遺産踏査記』『STESSA』6、2006年。
片岡龍「近世日本思想における認識枠組みの転換」『東アジアにおける国際秩序と交流の歴史的研究』№4、2006年。
片岡龍 書評／高橋文博『近世の死生観—徳川前期儒教と仏教—』『図書新聞』2792号、2006年。
片岡龍「荻生徂徠」大庭健主編『現代倫理学事典』弘文堂、2006年12月。
片岡龍「人文学における個人研究と共同研究」『日本中国学会便り』10、2006年。
片岡龍 書評／楊国荣『儒学的思惟与辨』〈韓国語〉『儒教文化研究』第11輯、2007年。
片岡龍 書評／楊国荣『儒学的思惟与辨』〈中国語〉『儒教文化研究(国際版)』第7輯、2007年。
片岡龍「日本と韓国の間での普遍性構築をめざして」『東洋経済日報』2007年9月28日号
片岡龍「下降の時代に思想史を」『東京新聞』・『中日新聞』2008年3月31日
片岡龍 対談／「思想の漢文脈と和文脈」『大航海』67、2008年。
片岡龍「対談／「日本人の実心とはなにか その1」」『公共的良識人』202、2008年

- 片岡龍「書評／佐藤正英著『小林秀雄—近代日本の発見』」『日本思想史学』40、2008年
- 片岡龍「対談／「日本人の実心とはなにか その2」『公共的良識人』203、2008年
- 片岡龍「書評／松田宏一郎著『江戸の知識から明治の政治へ』」『日本歴史』734、2009年
- 大川真「書評 黒住真著『近世日本社会と儒教』」『日本史研究』513号、日本史研究会、2005年5月、56～61頁。
- 大川真 佐藤弘夫編『概説 日本思想史』年表（近世部）担当執筆（ミネルヴァ書房、2005年4月）。
- 大川真 荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』「家永三郎」・「もっと知りたい人のために 近世」の項執筆（新書館、2008年3月、188-189,200-201頁）
- 大川真「「知」の伝達をめぐる全体討論総括—反時代的精神を懐中しながら」『年報日本思想史』7号、日本思想史研究会、2008年3月。
- 大川真「佐久間正著『徳川日本の思想形成と儒教』」『文芸研究』165集、日本文芸研究会、2008年3月
- 大川真「荻生茂博著『近代・アジア・陽明学』」『日本思想史研究』40号、東北大学文学研究科日本思想史研究室、2008年3月。
- 大川真『日本思想史事典』（年表近世部担当）、山川出版社、2009年4月、
- 大川真「山鹿素行」、「貝原益軒」、「山崎闇斎」、「新井白石」、「天皇と幕府・政府—権威と権力」の項担当執筆。遠山淳・中村生雄・佐藤弘夫編『日本文化論キーワード』74-75,147-148,150-151（有斐閣アカデミア、2009年4月）
- 大川真「回顧と展望」（2008年近世、思想編）（『史学雑誌』118-5、2009年5月、827-830頁）
- 桐原健真「書評 川口浩編著『日本の経済思想世界—「十九世紀」の企業者・政策者・知識人』」、渋沢研究会『渋沢研究』18号、2006年、79～85頁。
- 桐原健真「書評 高橋裕文著『幕末水戸藩と民衆運動—尊王攘夷運動と世直し』」、地方史研究協議会『地方史研究』56巻5号、2006年、114～115頁。
- 桐原 健真（岡部 健・相澤 出・竹之内 裕文・三井 ひろみと共著）「【座談会】地域在宅ケアを考える・5 日本社会における「死の文化」変容—在宅ホスピスの現場から見えてくるもの」、『公衆衛生』2008年、72巻6号、483～489

頁

- 桐原健真「藤田大誠著『近代国学の研究』」、『明治維新史研究』、2009年、63～66頁
- 桐原健真「専応口伝——日本の美意識の誕生」（143頁）・「政談——日本における政治的人間の模索」（153頁）・「翁の文——文化類型的日本論の先駆」（154頁）・「南総里見八犬伝——近世日本における伝奇小説の最高峰」（157頁）・「国意考——自然調和型日本観の成立」（156頁）・「古事記伝——「漢意」と「古意」」（158頁）・「東海道四谷怪談——義理人情の表と裏」（159頁）・「真善美日本人——冷徹なナショナリストの自己分析」（168～169頁）・「『思想の科学』——多元主義の知識人たち」（184～185頁）・「タブーへの挑戦と戦後歴史学——江上波夫『騎馬民族国家』1967年」（188～189頁）・「近代における漢字と漢文——子安宣邦『漢字論』2003年」（232～233頁）、遠山淳・中村生雄・佐藤弘夫編『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年（計11項目）
- 桐原健真「8章 “あの世、どこへ行ったか」（諸岡了介との共同執筆）・「9章 日本人の死生と自然」・「コラム 病院の思想」、清水哲郎監修・岡部健／竹之内裕文編『どう生き どう死ぬか——現場から考える死生学』弓箭書院、2009年

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

- Hiroo Sato “The Changing Figure of Traditional Deities in Early Japan” International Conference on Arts and Humanities 2005、Hawaii Univ. USA, 2005年.
- Hiroo Sato “The Cosmology of Buddhas and Kami : A reconsideration of kami-Buddhist malgamation paradigm” International Conference on Arts and Humanities 2006, Hawaii Univ. USA, 2006年.
- Hiroo Sato “Mononoke and Kami : The Causes of Illness in Early Japan” International Conference on Arts and Humanities 2007, Hawaii Univ. USA, 2007年.
- 佐藤弘夫「遣唐使像の変容」国際シンポジウム・東アジア文化交流の源流、浙江工商大学、2007年9月.
- Hiroo Sato “Buddhas and Kami in Japan” International Conference on Arts and Humanities 2008, USA, 2008年1月.
- Hiroo Sato “Transition of View of Mountains in Japan” 国際シンポジウム・Shugendō: The History and Culture of a Japanese Religion, USA, 2008年4月.
- 佐藤弘夫「日本における天台宗の地方伝播」国際シンポジウム・海を渡る天台文化、中国、2008年5月
- Hiroo Sato “The Emergence of Shinkoku(Gods’ Land) Ideology” 国際シンポジウム : Religiou ‘Nativism’ in Buddhist Societies, German, 2008年9月.
- Hiroo Sato “Tenno Ideology and Discourse” EAJIS Conference 2008, Italy, 2008年9月.

- Hiroo Sato “The destination of the Dead” International Conference on Arts and Humanities 2009, USA, 2009 年 1 月.
- Hiroo Sato “Transition of the View of Mountains in Japan” International Conference on Arts and Humanities 2010, USA, 2010 年 1 月.
- 片岡龍「十七世紀 東亜細亜 儒学の潮流」韓国、第 2 回江華陽明学派国際学術大会韓国陽明学会「霞谷と江華陽明学派」安陽大学校（江華キャンパス）2005 年 10 月 29 日.
- 片岡龍「近世日本思想における認識枠組みの転換」京都大学 COE「東アジアにおける国際秩序と交流の歴史的研究」主催国際シンポジウム「17 世紀より 19 世紀に至る東アジア各国の学術位相」京都大学 100 周年時計台記念館会議室、2006 年 1 月.
- 片岡龍「儒教に対する使命感と諦念」日韓共同シンポジウム：18－19 世紀東アジア思想空間の再発見—丁茶山の時代の韓国・日本学術史—、東北大学マルチメディアホール教育研究棟 6 F、2007. 8. 31
- 片岡龍「伊藤仁齋における『孟子』」第 5 回日本漢学国際学術検討会、国立台湾大学文学院演講庁、2008 年 3 月 29 日
- 片岡龍「朱子学派・古学派の知的教養としての側面」国際儒教文化研究論壇創立記念学術検討会招待発表、成均館大学 600 周年記念館、2008. 5. 24
- 片岡龍「荻生徂徠—「独学」の魅力—」成均館大学東アジア学術院招待発表、成均館大学東アジア学術院、2008. 6. 20
- 片岡龍「朱子学からの転換」韓国政治思想学会—日本政治思想学会共同主催第 7 回韓・日国際学術会議、高麗大学 100 周年記念館国際遠隔会議室、2008. 6. 21
- 片岡龍「目に見えないものへの想像力」韓・日思想史共同シンポジウム、韓国学術振興院第一層会議室、2008・8・12
- 片岡龍「14～19C の日本の学問」台大日文教学的新視野暨研究生研習營、台湾大学文学院哲学系會議庁、2008. 10. 15
- 片岡龍「文化史の研究手法」台大日文教学的新視野暨研究生研習營、台湾大学文学院哲学系會議庁、2008. 10. 16
- 片岡龍「思想史の周辺」台大日文教学的新視野暨研究生研習營、台湾大学文学院哲学系會議庁、2008. 10. 16
- Okawa Makoto Kishin, “Shinto and Reigaku in the Middle-Edo Period”(Perspectives on Religion and Ritual in Early Modern Japan, Organized by

Leiden Institute for Area Studies),2009年6月。

KIRIHARA Kenshin, *Calm and Storm in the Pacific: International Aid and Trans-Pacific Relations 1900-1931*、プリンストン大学東アジア研究所・財団法人渋沢栄一記念財団主催 “Trans-Pacific Relations: East Asia and the United States in the 19th and Early 20th Centuries”、2006年9月8日～10日、アメリカ合衆国・プリンストン大学。

KIRIHARA Kenshin, *The Miniature of a New World As a Model of Modernization*、張謇研究センター主催「第4回 張謇国際学術研討会」、2006年11月25～28日、中華人民共和国・南通市文峰飯店。

桐原健真「「帝国」の誕生——19世紀日本における国際社会認識」、台湾中央研究院・人文社会科学研究中心・亜太区域研究専題中心主催「東亜世界中日本社会的特徴国際研討会」、2007年03月15～16日、中華民国（台湾）・台北市中央研究院。

(2) 国内学会

佐藤弘夫「天皇の宗教的権威・再考」奈良女子大COE講演会、奈良女子大学、2005年5月15日。

佐藤弘夫「信仰と解脱」印度学宗教学会大会基調講演、2005年5月28日。

佐藤弘夫「奥羽の霊場論」東北中世考古学会宮城大会基調講演、東北歴史博物館講堂、2005年9月25日。

佐藤弘夫「専修念仏と神祇不拝—なぜ念仏は弾圧されたのか」真宗教学学会高田大会記念講演、真宗大谷派高田別院、2006年5月。

佐藤弘夫「日本宗教の多面的・多角的解明に向けて— 仏教史の立場から」日本宗教学文化史学会10周年記念シンポジウム招待発表、京大会館、2006年12月。

佐藤弘夫「ヒトガミ信仰の系譜」金光教教学研究所第42回教学研究会基調講演、金光教教学研究所、2009年9月8日。

佐藤弘夫「近代の歴史学と『立正安国論』」シンポジウム:近現代における国家と宗教— 『立正安国論』をめぐって、立正大学、2009年6月5日。

佐藤弘夫「西行における「山」と救済」第一回西行学会大会シンポジウム、國學院大學、2009年8月30日。

佐藤弘夫「ヒトガミの誕生—日本列島における死者供養の淵源」日本宗教学会第68回学術大会、京都大学、2009年9月12日。

佐藤弘夫「崇る神から罰する神へ」土井道子記念京都哲学基金シンポジウム：神

- 道と日本の神々、京都大学、2009年9月28日。
- 佐藤弘夫「蒙古の調伏者」日蓮像の形成」シンポジウム：予言と調伏のかたち、
京都国立博物館、2009年10月23日。
- 佐藤弘夫「日本文化と放浪の系譜」日本映像民俗の会シンポジウム：放浪の系譜
—空也から井月まで、伊那市、2009年12月25日
- 片岡龍「朝鮮における音声言語と文字表記」教育史学会（第49回大会）「漢字文
化圏の比較＜教育メディア史＞コロキウム」東北大学文学部 2005年10
月10日。
- 片岡龍「いまなぜ日本思想史か？」ジュンク堂書店池袋本店「JUNKU 連続トー
クセッション」ジュンク堂書店池袋本店4Fカフェ、2008 7. 3
- 片岡龍「足利学校の学問の性格とその変化について」北海道大学中国文化
論講座講演会 2008. 10. 25
- 片岡龍「徂徠学再考」北海道大学中国文化論講座座談会、2008. 10. 27
- 大川真「叫ばれる「正名」—新井白石後の日本国家論—」日本思想史学会、2005
年10月。
- 大川真「新井白石の国王復号説の思想史的意義」研究プロジェクト「19世紀東ア
ジアにおける国際秩序観の比較研究」、研究代表吉田忠、国際高等研究所、
2006年8月)
- 大川真「後期水戸学研究」日本思想史学会、2006年10月。
- 大川真「徳川政権の支配正当化論の諸相—儒学者の場合—」科学研究補助金 基
盤研究B「東照宮祭祀の基盤・確立・展開」・研究代表者曾根原理、研究報
告会、2008年5月。
- 大川真「政事の構造」論再考、東北大学・奈良女子大学合同研究会シンポジウ
ム「日本の政治の形（かたち）——王権と政治権力をめぐって」2009年03
月16～17日、奈良市・奈良女子大学
- 桐原健真「「帝国」の成立——幕末維新时期における華夷意識の転回」、吉田忠研究
代表「19世紀東アジアの国際秩序観の比較研究」木津川市・国際高等研究所、
2006年9月。
- 桐原健真「水戸学の時代精神——あらたな会沢正志齋像の模索」茨城大学人文学
部主催「地域連携シンポジウム 茨城の時代精神」茨城大学、2006年11月。
- 桐原健真「『漢土人の翹楚』——魏源と吉田松陰」、吉田忠研究代表「19世紀東
アジアの国際秩序観の比較研究」木津川市・国際高等研究所、2006年8月。
- 桐原健真「九段の母——近代における魂のゆくえ」、タナトロジー研究会、仙台・

- 岡部医院、2006年04月22日。
- 桐原健真「魂を留める——吉田松陰の場合」、日本宗教学会2006年度大会「パネル：どう死ぬか——現場から考える「宗教」研究」、仙台・東北大学、2006年09月18日。
- 桐原健真「世界史的視座から見たる大津港」、水戸哲学会「春期合宿」、2007年03月03～04日、北茨城市・大津港。
- 桐原健真「『帝国』日本と東アジア——幕末維新期における国際秩序認識」、明治維新史学会例会、東京・明治大学、2007年5月26日。
- 桐原健真「直線と円環——日本思想における生死」、タナトロジー研究会、仙台市・岡部医院、2007年06月15日。
- 桐原健真「『天下』と『五世界』——幕末期における自他認識の転回」、練馬区・武蔵大学、全国横井小楠研究会大会、2007年09月09日。
- 桐原健真「直線と円環——吉田松陰の死生」、日本倫理学会2007年度大会、新潟市・新潟大学、2007年10月13日。
- 桐原健真「『帝国』日本の誕生」、日本思想史学会2007年度大会、長崎市・長崎大学、2007年10月21日。
- 桐原健真「求法の道——河口慧海の「仏教」」、2008年1月26日、千代田区・二松学舎大学、「近代日本の仏教者における中国体験・インド体験」第四回研究会（科学研究費基盤（C）研究分担者報告）
- 桐原健真「仏陀を背負いて西藏へ——河口慧海と〈日本仏教〉」、2008年1月26日、仙台市・東北大学、東北仏教史談話会
- 桐原健真「日本における『帝国』概念の受容」2008年度日本比較政治学会・分科会C「比較政治学としての政治思想史：日本の事例を中心に」、2008年6月22日、横浜市・慶應大学
- 桐原健真「『聖典』を求めて——河口慧海と『日本仏教』」、2008年度日本思想史研究会夏季セミナー「『古典』を考える」、福島県磐梯熱海温泉・金蘭荘花山、2008年8月23日～24日
- 桐原健真「歴史学から倫理学へ——日本思想史の試み」、日本倫理学会第59回大会・ワークショップ2「日本思想から倫理学へ」2008年10月3日、つくば市・筑波大学
- 桐原健真「水戸学の世界像——会沢正志斎を中心に」地方史研究協議会2008年度大会〈第59回〉「共通論題 茨城の歴史的環境と地域形成」2008年10月18日～19日、水戸市・常磐大学
- 桐原健真「19世紀東アジアと『帝国』日本」、京都市・京都産業大学世界問題研究所、2008年11月26日
- 桐原健真「尊王と攘夷——「水府の学」としての後期水戸学」、東北大学・奈良女子大学合同研究会シンポジウム「日本の政治の形（かたち）——王権と政

治権力をめぐって」2009年03月16～17日、奈良市・奈良女子大学
桐原健真「幕末における『帝国』」、幕末史研究会、2009年6月27日、武蔵野
市・武蔵野商工会館
桐原健真「『帝国』日本から『大日本帝国』へ」、「20世紀と日本」研究会、2009
年8月8日、和歌山市・ホテルグランヴィア和歌山

2 教員の受賞歴（2005～2009年度）

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2005～2009年度）

（1）科学研究費補助金

佐藤弘夫（研究代表者）基盤研究（C）「起請文を素材とする思想史研究の新たな領域と方法の開拓」2005～2007年度、350万円
佐藤弘夫（研究代表者）基盤研究（C）「板碑を素材とする思想史研究の新たな領域と方法の開拓」2008～2010年度、388万円
佐藤弘夫（研究分担者）基盤研究（A）（研究代表者中村生雄）「「供養の文化」の比較研究を通して見る「死」の表象の形成過程とその現代的変容」2007年度～2009年度
片岡龍（研究代表者）萌芽研究「「凶説」の分析・比較を中心とした近世思想史研究の領域の拡大と深化」2006～2008年度、280万円
片岡龍（研究代表者）挑戦萌芽研究「「凶説」と「書画」の分析・比較による近世思想史研究領域の拡大と深化」2009～2011年度、270万円
大川真（研究分担者）基盤研究（B）「東照宮祭祀の基盤・確立・展開」（研究代表者曾根原理、2008年～。
大川真（研究代表者）若手研究（スタートアップ）「18世紀後期日本における近代的国家論の思想史的研究」（課題番号20820005）、研究代表者、2008～2009年度、1560千円。
桐原健真（研究分担者）基盤（C）「近代日本の仏教者における中国体験・インド体験」（小川原正道代表）、2006～2008年度、25万円
桐原健真（研究代表者）研究成果データベース「日本思想史文献データベース検索」、2006年度～、390万円
桐原健真 日本学術振興会科学研究費・基盤（C）「現代日本の死生観の発掘と倫理的基礎づけ——在宅ホスピスの現場との連携を通して」（竹之内裕文代表）、2008年4月採択、70万円
桐原健真（研究代表者）若手研究（B）「『帝国』の思想史的研究」、2009年度～、300万円

(2) その他

片岡龍 研究科長裁量経費「日本思想と韓国思想の新たな学術史叙述のための共有基盤構築を目的とする国際シンポジウムの開催と論文集の刊行」2007年、30万円

片岡龍 サントリー文化財団「18-19C 日本・韓国思想における近代の始原・古層（独自の時間・空間認識）の分析を通じて、日本・韓国の新たな学術基盤の共有をめざす国際的・学際的研究」2007年、100万円

片岡龍 日韓文化交流基金「日本・韓国の新たな学術基盤の共有を目的とする国際シンポジウム（18-19C の日本・韓国の学問・政治・宗教・科学）の開催」2007年、31.8万円

片岡龍 インテリジェント・コスモス文化財団「国際学会：18-19C の日本・韓国の学問・政治・宗教・科学」2007年、10万円

桐原健真 渋沢栄一記念財団研究部「渋沢国際儒教研究」（陶徳民代表）、2004～2006年、100万円

桐原健真 2005年度東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム「医療現場との対話による「臨床死生学」の創生——地域の自然と文化に支えられた「死」の意味」（竹之内裕文代表・代表者転出のため成果報告時に代表代行）2005年10月～2007年3月、5万円

桐原健真 2007年度財団法人笹川医学医療研究財団在宅ホスピス緩和ケア研究助成「看取る文化の再構築——在宅ホスピスのための死生観教育プログラムの開発」（竹之内裕文代表）、2007年4月より現在に至る、10万円

桐原健真 ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成「在宅ターミナルケアを阻害する社会的・文化的因子の構造解析」（竹之内裕文代表）2007年9月採択、4万円

桐原健真 2007年度東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム「医療現場との対話による「臨床死生学」の確立——歴史的・文化的アプローチに基づいた「死生」観研究とそのアーカイブ化」（桐原健真代表）、2007年10月採択、200万円

V 教員による社会貢献（2005～2009年度）

佐藤弘夫

COE分野別評価部会委員(2004年度)

日本学術会議連携会員（2006年8月～2008年9月）

講演「霊場の形成と納骨信仰」岐阜県高山市真宗大谷派高山別院、2004年8月.

講演「神と仏の精神史」岐阜県高山市飛騨学場、2004年8月。
講演「中世の神々と親鸞聖人」京都市東本願寺、2004年11月。
講演「中世人の夢—親鸞聖人と明恵上人」京都市高倉会館、2005年3月。
講座「みちのくの霊場と慈覚大師伝説」NHK文化センター「新・みちのく古寺巡礼」、2005年度。
講演「みちのくの霊場—慈覚大師の足跡を尋ねて」東北大学文学部有備館講座、2005年7月。
講演「中世の神々と親鸞聖人」浄土真宗神奈川地区研修会、2005年12月。
講演「霊場の形成と霊験仏信仰」金沢文庫専門講座「霊験仏の世界」、2006年11月。
講演「専修念仏と神祇不拝」本願寺福岡会館、2006年12月。
講座「日本仏教と死—葬儀の歴史と死生観の変容」国際仏教学大学院大学、2007年5月。
講演「専修念仏弾圧の歴史的背景」大谷大学親鸞聖人誕生会記念講演、2007年6月。
講演「死者のゆくえ—日本における死生観の変容」岩手大学図書館、2007年6月。
講演「専修念仏弾圧の歴史的背景」信道講座、真宗大谷派名古屋別院、2008年2月。
講演「瑞巖寺」シンポジウム：松島湾の文化遺産、塩竈市民交流センター、2008年7月。
講演「墓から読む歴史」文学研究科齋理屋敷講座、2008年10月。
講演「成仏する草木—聖なる植物の系譜」東北大学植物園公開市民講座、植物園、2008年10月。

片岡龍

講演「蘆東山（1696—1776）とその時代」東北大学文学部有備館講座、2007年11月

大川真

吉野作造記念館（NPO 法人古川学人）主催次世代人材育成研究会に講師として参加（宮城県大崎市）、2008年8月。

吉野作造記念館（NPO 法人古川学人）主催次世代人材育成研究会事務局を担当、また講師としても参加（宮城県大崎市）、2009年8月。

桐原健真

講演「九段の母——近代における魂のゆくえ」、東北死生学研究会、2006年04月22日、仙台市・医療法人社団爽秋会岡部医院

講演「水戸学の時代精神——あらたな会沢正志斎像の模索」、2006年11月

18日、水戸市・茨城大学、茨城大学人文学部主催「地域連携シンポジウム 茨城の時代精神」

講演「歴史を『読む』ということ」（2007年12月2日）・「歴史とわたしたち」（2007年12月8日）、仙台市・東北大学、東北大学大学院文学研究科主催「ステップアップ開放講座」

講演「直線と円環——日本思想における生死」、東北死生学研究会、2007年06月15日、仙台市・医療法人社団爽秋会岡部医院

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2005～2009年度）

佐藤弘夫

日本思想史学会評議員（2001～2005年度）・大会委員長（2004～2005年度）
日本文芸研究会委員（2001～2005年度）
東北史学会評議員（2001～2005年度）

片岡龍

日本思想史学会評議員（2009～2010年度）
中国社会文化学会評議員（2009～2010年度）

大川真

日本思想史学会事務局幹事（2008年度～）
日本文芸研究会編集委員（2008年度～）

桐原健真

明治維新史学会委員（2000年度～）
日本文芸研究会委員（2008年度～）

VII 教員の教育活動（2009年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

佐藤弘夫

2学期 日本思想史特論 日本人の死生観

片岡龍

1学期 日本思想史特論 学問・教育の形

2学期 日本思想史特論 歴史の思想

小路田泰直

集中講義 日本思想史特論VI 人はなぜ、いかに王を創出するか、天皇主権の誕生までを見透す

佐藤弘夫・片岡龍

- 1 学期 日本思想史研究演習 日本思想史の諸問題 1
2 学期 日本思想史研究演習 日本思想史の諸問題 2

2 学部授業担当

佐藤弘夫

- 4 セメスター 日本思想史基礎講読 古代・中世思想史関連文献講読
6 セメスター 日本思想史各論 日本人の死生観

片岡龍

- 4 セメスター 日本思想史概論 日本思想史研究入門
5 セメスター 日本思想史各論 学問・教育の形
6 セメスター 日本思想史各論 歴史の思想

佐藤弘夫・片岡龍

- 5 セメスター 日本思想史演習 日本思想史の諸問題 1
6 セメスター 日本思想史演習 日本思想史の諸問題 2

大川真

- 3 セメスター 日本思想史基礎講読

3 共通科目・全学科目授業担当

片岡龍

- 1 セメスター 人文社会科学総論

桐原健真

- 1 セメスター 人文社会科学序論「メディアリテラシー入門」
2 セメスター 人文社会科学序論「メディアリテラシー入門」
1 セメスター カレントトピックス・国際共修ゼミ「日本の思想と歴史」
2 セメスター カレントトピックス・国際共修ゼミ「日本の思想と歴史」

(2) 他大学への出講 (2005～2009 年度)

佐藤弘夫 奈良女子大学 2006 年度

片岡龍 韓国・成均館大学 2008 年度

片岡龍 台湾大学 2008 年度
片岡龍 北海道大学 2008 年度
大川真 米沢女子短期大学 2008 年度
大川真 米沢女子短期大学 2009 年度
桐原健真 茨城大学 (共通教育) 2006 年度
桐原健真 茨城大学 (人文学部) 2006 年度
桐原健真 茨城大学 (人文学部) 2008 年度
桐原健真 茨城大学 (人文学部) 2008 年度